■今月の特選句

2015年11月

日短の嘆き重ねて人は灰　青山桂一

森鴎外は死に際に、馬鹿馬鹿しいと呟いた。そんなエピソードを思わせる滑稽句ですね。盗作しちゃおう。「長き夜の退屈重ね臨終に」。

新米に嫉妬している古米かな　岡野　満

生物ではない古茶を擬人化して自己投影句の色が濃くなった。結果はナンセンスの可笑しさ。「古茶の缶脇に押しやる新茶かな」。

やらせにも耐ふる新郎菊日和　加川すすむ

年々エスカレート演出過多の結婚披露宴。ちょっと盗作しちゃおう。「披露宴とは疲労宴とも菊日和」「そのあとは新婦にも耐え菊日和」。

鰯雲異常気象を泳ぎきる　奥脇弘久

雲を魚の大群と見立てた先人の詩心に敬意を表したい。鰯雲の鰯は空を泳いでいると確信しての一句。「あおものはからだによろし鰯雲」。

墜落の熟柿弔ふ蟲の列　伊藤洋二

甘いものを貰えるお葬式には婆ちゃんに連れられて行ったものよ。「やさしさの程良く甘き熟柿かな」「木に成りしままに熟して木守り柿」。

秋風の声もききとるきき上手　川島智子

「秋の声」なんて季語がありました。秋の声を実感出来ないから俳句は詠めないなんてことはない。「空耳をとがらせ秋の声を聞く」。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の秀逸句　（・・・七七をつけてみました）

菊まくら一字たがへりや北まくら　小林英昭
・・・字感というより時間の問題

世を嘆き松茸飯に舌鼓　下嶋四万歩
・・・舌の鼓に腹がポンポコ

新米の出来鑑定の雀かな　壽命秀次
・・・スズメに味がわかるだろうか

虫の音の音符飛び交ふ狭庭かな　上山美穂
・・・椅子はなくとも譜を読めずとも

ハンドルを右折に切って台風来　菅野あたる
・・・つまりシュートが得意なんだね

地球てふ薄皮の土地蟻地獄　酒井鹿洋
・・・お百姓さん地球の皮剥く

大相撲ここぞで敗ける人の性　金澤　健
・・・勝つてなんぼの世界なんだが

神の留守その間に実る巫女の恋　氏家頼一
・・・神も出雲で浮気するらむ

鰯雲鯖雲となり秋刀魚食ぶ　佐野萬里子
・・・羊雲などたまには肉も

杜鵑草とぶかと見れば零れけり　笠　政人
・・・鳥かと見れば草花だった

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

古民家の仕上げとなりぬ吊るし柿　有冨洋二
・・・神仏の垣根越えてのご立腹

競売に掛かる仏像神無月　久我正明
・・・お回りさんも輪に入り踊れ

旅人にこの夕焼の完成度　山本　賜
・・・出来た俳句の完成度また

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の滑稽句

	ラブラブの褪せて秋風立ち初める	青木輝子
	来る来ない大へそ曲がり台風禍	青木輝子
【佳作】	顔見知り素通り出来ない赤い羽根	青木輝子
【佳作】	川辺から畦へ飛び火や彼岸花	青山桂一
	竹林の裾に炎や曼珠沙華	青山桂一
	そぞろ寒鴉の声は真つ黒け	赤瀬川至安
【佳作】	ホバリングするとんばうはゼンマイか	赤瀬川至安
	かに丼も松茸飯も夢と消ゆ	赤瀬川至安
	水澄むやスイーツ頬張りご褒美とす	秋月裕子
【佳作】	生き抜く決意大台風に打ち勝り	秋月裕子
	めっきりと雀が居ない秋の夕焼	秋月裕子
【佳作】	献立のことはさておき大根引く	有冨洋二
	マイナンバー覚えられない文化の日	有冨洋二
【佳作】	我が家にもスーパームーン禿広がる	粟倉健二
	乱視良し同じサンマが二匹見え	粟倉健二
	芋づるや小さき芋のみ連なれり	粟倉健二
【佳作】	唐辛子己に怒り曲りけり	飯塚ひろし
	今上に八十回も秋惜しむ	飯塚ひろし
	香り嗅ぎ松茸もとに戻しけり	飯塚ひろし
【佳作】	試食して梨の盛り籠買はさるる	井口夏子
	鬼女迫る釣瓶落としに救はれる	井口夏子
	満月と心通はせ我善人	井口夏子
【佳作】	セミヌードのファッション見納め秋立ちぬ	池田亮二
	風蕭々わが道をゆく徘徊老	池田亮二
【佳作】	母置いて猫抱いて逃ぐ秋出水	伊藤浩睦
	辣韮で朝飯食べて戦争法	伊藤浩睦
	アコーディオン弾いて募金の秋祭	伊藤浩睦
【佳作】	デパートの林檎に言わす下心	伊藤洋二
	怖いけどはち切れてみたい青蜜柑	伊藤洋二
	冷えすぎて薄く切りすぎたる西瓜	稲沢進一
【佳作】	お隣に新婚夫婦障子貼る	稲沢進一
	向日葵やみんなしあはせならばよし	稲沢進一

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	歯ぎしりといびきの人に虫の鳴く	井野ひろみ
	鳴く虫や深夜業務の手当てなく	井野ひろみ
【佳作】	敬老日婆様は受く子守かな	井野ひろみ
【佳作】	どんな顔なんだろ夜の朝顔は	上山美穂
	新米の香を握りしめにけり	上山美穂
	秋行脚黄門様のエンブレム	氏家頼一
【佳作】	大熊手担いでくぐる縄のれん	氏家頼一
	鍵音のかたりと一つうそ寒し	梅岡菊子
	すれちがふ人と照らされ十六夜	梅岡菊子
【佳作】	病窓の吾に休めとうろこ雲	梅岡菊子
	覗き見て少し後悔踊笠	越前春生
	おでん鍋自家大根のうとまるる	越前春生
【佳作】	長き夜の妻には妻の胸のうち	越前春生
【佳作】	名月に覗かれている四畳半	岡野　満
	秋深し破れた恋にわけがあり	岡野　満
	総の地の蚯蚓鳴きけりソプラノで	小川飩太
	がちやがちやは一時妻は四六時中	小川飩太
【佳作】	目黒産猫も納得秋刀魚かな	小川飩太
【佳作】	わいわいもがやがやもなき秋の暮	奥脇弘久
	笑ひ茸食してみたしひとり旅	奥脇弘久
	湯上がりの熟女のすする熟柿かな	加川すすむ
【佳作】	行く秋や坊主にならぬ解説者	加川すすむ
	むさぼりて飽かず断種の黒葡萄	笠　政人
【佳作】	並足の放(ま)りゆく馬糞天高し	笠　政人
	端居して皮ごと食べる葡萄かな	加藤澄子
【佳作】	松山や神輿の声も五七五	加藤澄子
	人住まぬ家に百合咲くミステリー	加藤澄子
【佳作】	秋茄子や腰のあたりが曲がりかけ	門屋　定
	秋茄子や隣の老婆やたら褒め	門屋　定
	秋茄子や夏痩せ無しの形良し	門屋　定
【佳作】	名月が背なで順待つ屋台かな	金澤　健
	鉄板にたこ焼ひとつ満月や	金澤　健

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	我八十路庭の木犀同い年	川島智子
【佳作】	十三夜子ばなれ出来ぬ母であり	川島智子
【佳作】	画面より紙面に親し灯の下	菅野あたる
	蟷螂の戦に懲りぬ性なりし	菅野あたる
【佳作】	ヒコーキ雲ぷっつり消へる秋の空	久我正明
	名月や開いていますと冷蔵庫	久我正明
【佳作】	白壁の街囲ひ込む鰯雲	工藤泰子
	ゐのこづち二進も三進も行かざるよ	工藤泰子
	曼珠沙華刻を刻みて反り返る	工藤泰子
	賞味期限少々気になる生身魂	小泉花子
【佳作】	老眼の我に七重の月がでる	小泉花子
	秋場所や外人二人が優勝戦	小泉花子
【佳作】	湯と三分あればことたる文化の日	小林英昭
	やや寒の放屁のみこむ尻の穴	小林英昭
【佳作】	安保法右向け右の蟻の道	酒井鹿洋
	安保法議員なだれるラガーかな	酒井鹿洋
【佳作】	モテるのはシルバーばかり危険なし	佐藤義子
	十五夜にうさぎつく餅ふるように	佐藤義子
	ワン一本澄み切った空に飛んで行け	佐藤義子
	紅あづまとふ薩摩芋どんとをり	佐野萬里子
【佳作】	目薬の期限は過ぎぬ秋彼岸	佐野萬里子
	底のなき秋空蓋したき噂	下嶋四万歩
【佳作】	業績を知りて輝く木の葉髪	下嶋四万歩
【佳作】	店頭に深傷を負ひし桃の実かな	壽命秀次
	盗撮かな夜の露天湯稲光	壽命秀次

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

【佳作】	信号の最前列に待つ残暑	白井道義
	世話になることに徹して墓参り	白井道義
	手料理と言へるかどうか秋刀魚焼く	白井道義
	踏んではならぬ踏んではならぬ彼岸花	鈴木和枝
	冬瓜ごろり　アンポハンタイ	鈴木和枝
【佳作】	手を振れば手を振る私の影法師	鈴木和枝
【佳作】	米国に利上げ話や新走	髙田敏男
	子どもより親の張り切る運動会	髙田敏男
	虫時雨吾が腹鳴も参加する	髙田敏男
	月の野に出て大型犬おしっこして	高橋きのこ
【佳作】	ハロウィンの出番待ちたるどて南瓜	高橋きのこ
	秋蝉やボイラー室の真中に	高橋きのこ
	わたし幽体でありけり曼珠沙華	田中　勇
	老人の秋夕焼を拝みけり	田中　勇
【佳作】	諍ひの声のする虫の闇	田中　勇
	敬老日生命線を見比べる	田中早苗
	安保法押し切られをり秋暑し	田中早苗
【佳作】	飲酒などしていませんと酔芙蓉	田中早苗
	観覧車覗きてとんぼ赤面す	田村米生
【佳作】	包丁が力をせがむ南瓜切り	田村米生
	秋茄子嫁にどっさり持たせけり	田村米生
【佳作】	月面に到着すれば月見なし	津田このみ
	空見上げ月を愛でたる地球人	津田このみ
	大人げを忘れて団栗拾いけり	津田このみ
	力なき手にうまい棒天高し	土屋泰山
【佳作】	権力はしょせん借り物さんま焼く	土屋泰山
	秋澄むや嵐の中の永田町	土屋泰山
	金にならぬ楽しみ幾つ敬老日	飛田正勝
	言霊をあやつり酌むや夜の秋	飛田正勝
【佳作】	大満月幾度借りる外厠	飛田正勝
	風に揺れぶつくさ小言稲穂かな	中井　勇
【佳作】	三日月のお腹の中にななし星	中井　勇
	焼きたての秋刀魚醤油にジュと鳴き	中井　勇

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	老いぬれば溢蚊さへも寄りつかず	新島里子
【佳作】	ひそみゐてこれも伊賀流烏瓜	新島里子
	運動会パン食ひ競争だけは出る	新島里子
	鼻糞を丸めて弾く秋の昼	西をさむ
	あゝ墓と書き損じたる秋の暮	西をさむ
【佳作】	秋の夜の小野小町の膝枕	西をさむ
	大きめの月に釣られてビール増え	花岡直樹
【佳作】	藁ぐろの丸さに宿る平和かな	花岡直樹
	九条を祀りて日本の空高し	花岡直樹
	秋場所や思ふ存分大き臀(しり)	原田　曄
【佳作】	穴惑総理答弁意味不明	原田　曄
	垂れ下がる敬老の日や日章旗	原田　曄
【佳作】	向日葵を活けて造花と間違はる	ひがし愛
	水鉄砲石の地蔵を悦ばす	ひがし愛
	迷子とは高齢のこと防災日	ひがし愛
【佳作】	秋深む木魚の音の膝頭	久松久子
	遺書書くより俳句の投句夜長の灯	久松久子
	秋夕焼入院番号一一四二と	久松久子
	国民の秋思きはまる安保かな	日根野聖子
	バスタオル広げきつたる秋高し	日根野聖子
【佳作】	鉄錆の風のにほひや台風来	日根野聖子
	秋彼岸林檎馳走のねずみの歯	藤岡蒼樹
【佳作】	包み解き林檎に添へる母のかな	藤岡蒼樹
	急坂に秋に腹空く蒸気車の	藤岡蒼樹
	A型も秋の大型連休に	藤森荘吉
	長き夜やしりとりりんごゴリラから	藤森荘吉
【佳作】	穂ほほほほすすき笑つてをりにけり	藤森荘吉
	臍の緒で親の恩知る秋八十路	藤原セツ子
【佳作】	花と葉に出会ひはあらず彼岸花	藤原セツ子
	月よりの使者はまだ来ず望の月	藤原セツ子
	季節去りふるへる声の秋の蝉	細川岩男
【佳作】	団栗を我れも貯め込み冬支度	細川岩男
	秋晴れは俺にとってももったいない	細川岩男
【佳作】	夜空には巨大な真珠十六夜	細川寛子
	秋雨のプラハに見惚れ無くし物	細川寛子
	夫鬼皮我は渋皮栗御飯	細川寛子

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

【佳作】	脇役の色を誇るや吾亦紅	松井寿子
	山坂の強弱のある虫しぐれ	松井寿子
	仲秋の蒼き光を吾が寝間に	松井寿子
【佳作】	敬老日みんなで父をほめ殺す	松井まさし
	秋の七草すべて餌食にブルドーザー	松井まさし
	無人売場秋果の番の美人猫	松井まさし
	境内に運動会の音迫る	三橋百笑
	公道を跨いで女郎網張りぬ	三橋百笑
【佳作】	色づきて葉隠れできぬ柿の実は	三橋百笑
	俎板の音爽やかに路地親し	宮森　輝
【佳作】	座禅室冷えて座布団黒光り	宮森　輝
	やゝ寒き戸を繰る音も母郷かな	宮森　輝
	根比べ敵もさるもの稲雀	百千草
	よく浸みしコンビニおでん秋夕焼	百千草
【佳作】	青胡桃よくなくないはいいねの意	百千草
	月までの相乗り願ふかぐや姫	森岡香代子
	熟柿の順番狂わす鳥の群れ	森岡香代子
【佳作】	ビル谷間月に見つかるかくれぼ	森岡香代子
	やはらかな人柄いちじくの甘さ	八木　健
	平らなる水にとんぼのタッチアンドゴー	八木　健
【佳作】	この壁のここまで来たと秋出水	八木　健
	かさこそと風の小僧か柿落葉	八洲忙閑
	集落の落葉時雨や大落暉	八洲忙閑
【佳作】	猫渡る信号無視の落葉道	八洲忙閑
【佳作】	踊の輪片思ひなる影を抱き	柳　紅生
	花街を狩場としたる蟻の道	柳　紅生
	台風のウインクをして反れてゆく	柳　紅生
	尻もちをついて抜去のコスモス根	柳澤京子
【佳作】	秋しぐれ発句でて来ぬ認痴かな	柳澤京子
	ホトトギス懸崖垂のごとき庭	柳澤京子
	鳴き殻のなほ輝けり蝉の腹	山下正純
	名月の申し子でありかぐや姫	山下正純
【佳作】	肩の荷を下ろして停まり赤とんぼ	山下正純
	蝗飛び立つローカル列車の風圧に	山本けい子
	花薄見覚えのある人の名は	山本けい子
【佳作】	若者の一群去りて虫の声	山本けい子

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

【佳作】	団栗を集める栗鼠に会ひにけり	山本　賜
	秋時雨京の都に黄泉の井戸	山本　賜
	隣より伸びきし南瓜居据はれる	横山喜三郎
	煤逃げを見てみぬふりをされてをり	横山喜三郎
【佳作】	同居する嫁をらずして秋茄子	横山喜三郎
	晴れ姿見せずにご免月と影	吉原瑞雲
【佳作】	おっさんと席譲らるる生身魂	吉原瑞雲
	病む腰をゆったり見せて敬老日	吉原瑞雲

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。